



旅人とオアシス

こむら よしかず
医学部 医学科 6年 **小村 慶和**

私は研究者になりたい学生です。先行文献を読んでいてわからないことがあるときに図書館を利用します。本を借りて勉強します。あるいは、その分野の本が置いてある本棚の前にいて目に付いた本に目を通し、また元の場所に戻します。これを数回繰り返して研究室に戻ります。図書館は同じ分野の本がまとまって置いてあるので便利です。新しいことを勉強するときにも図書館に行きますが、この場合は図書館に目的の本がないときがあります。そんな時には図書館にリクエストして図書を購入してもらっています。おかげで、世界の大学で学ばれていることを問題なく勉強できています。

図書館のおかげで、私は必要なときに知識を増やすことができます。私はそんな図書館を「旅人にとってのオアシス」のような場所だと感じています。旅人はその旅の途中でオアシスに立ち寄っていました。その旅を続けるために必要となる水や食料を補給しなくてはならなかったからです。私にとっての研究もその旅と似ています。研究を完遂するためにはたくさんの知識が必要で、それを途中で取得していかななくてははいけません。私のような見習いの場合には特にそうです。そんなときに知識を与えてくれる場所が図書館です。図書館のおかげで、私は研究を続けることができます。その存在はまるで旅人にとってのオアシスです。

旅人にとってオアシスが不可欠のように、研究する学生にとって図書館は不可欠な存在だと思います。求められる図書館の機能は多様化していき、運営がますます大変になっていくことと思います。そんな中であっても、これまでのように学生を支えるような図書館であってもらえたら嬉しいです。



知識を深める場所

大学院医工農学総合教育部
コンピュータ理工学コース修士 2年
みしま たいしん
三島 大進

私は大学生の頃、人工知能やプログラミングなどの知識について、ほとんど図書館を利用しませんでした。なぜなら、インターネットで検索した方が素早く、大量の情報を得ることができたからです。実際に、「人工知能」と検索するだけで数千万件の記事が存在します。学年が上がり知識を深めていくと、検索した大量の情報には間違った情報や断片的な情報が記載されていることに気づきました。そのため、より知識を深めるためにインターネットを利用して、目的の情報を探すには手間がかかるようになりました。

大学院生になり、趣味でアプリ開発の技術書を図書館で借りました。そこには、既存の情報や関連する細かい情報が記載されていました。インターネットで目的の情報を探すより、本の流れに沿って目的の情報を探す方が、自身の理解と幅広い知識の獲得にとっても有意義だと気付きました。それ以来、研究でも論文や技術書を図書館で借りています。本はインターネットと比べると情報は少ないです。ですが、本には出版社や著者が明記されているため、情報の正確性や信憑性が保証されています。さらに、目的の情報に関連する幅広い情報も得ることができます。

上記では、本の良いところを述べました。ですが、目的の本が図書館にない場合があります。そんなときに、私は「学生希望図書リクエスト」や「他大学から本の取り寄せ」を利用しています。学生には、高価な本も希望を出せば読むことができ、とても助かっています。皆さんも、インターネットだけでなく図書館を利用して知識を深めてみてはどうでしょうか？